

石狩地域リハビリテーション広域支援 センターの活動状況報告

平成18年度12月設立

道内18ヶ所目



北海道地域リハビリテーション広域支援センター代表者会議

平成20年2月17日

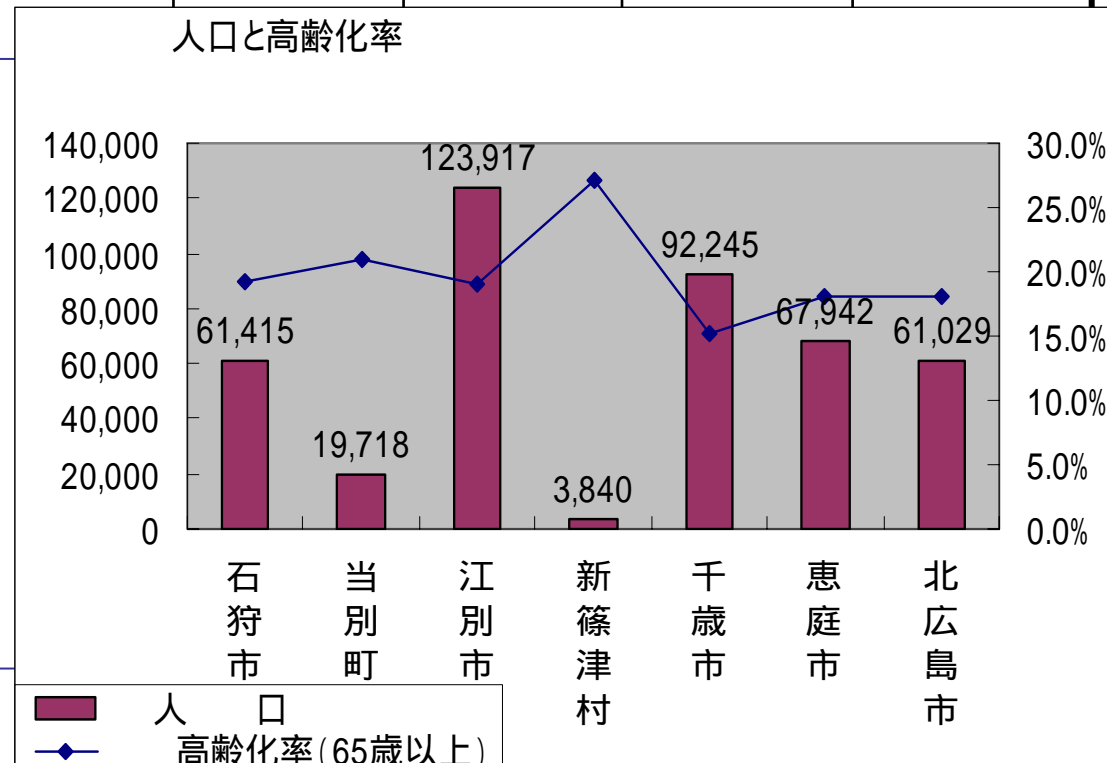
石狩圏域の状況

7市町村

	江別保健所管内 4市町村				千歳保健所管内3市		
管内	江別市	石狩市	当別町	新篠津村	千歳市	恵庭市	北広島市
人口(人) 430,106	123,917	61,415	19,918	3,840	92,245	67,942	61,029
高齢化率 18.1%	19.1	19.3	21.0	27.3	15.1	18.0	18.1

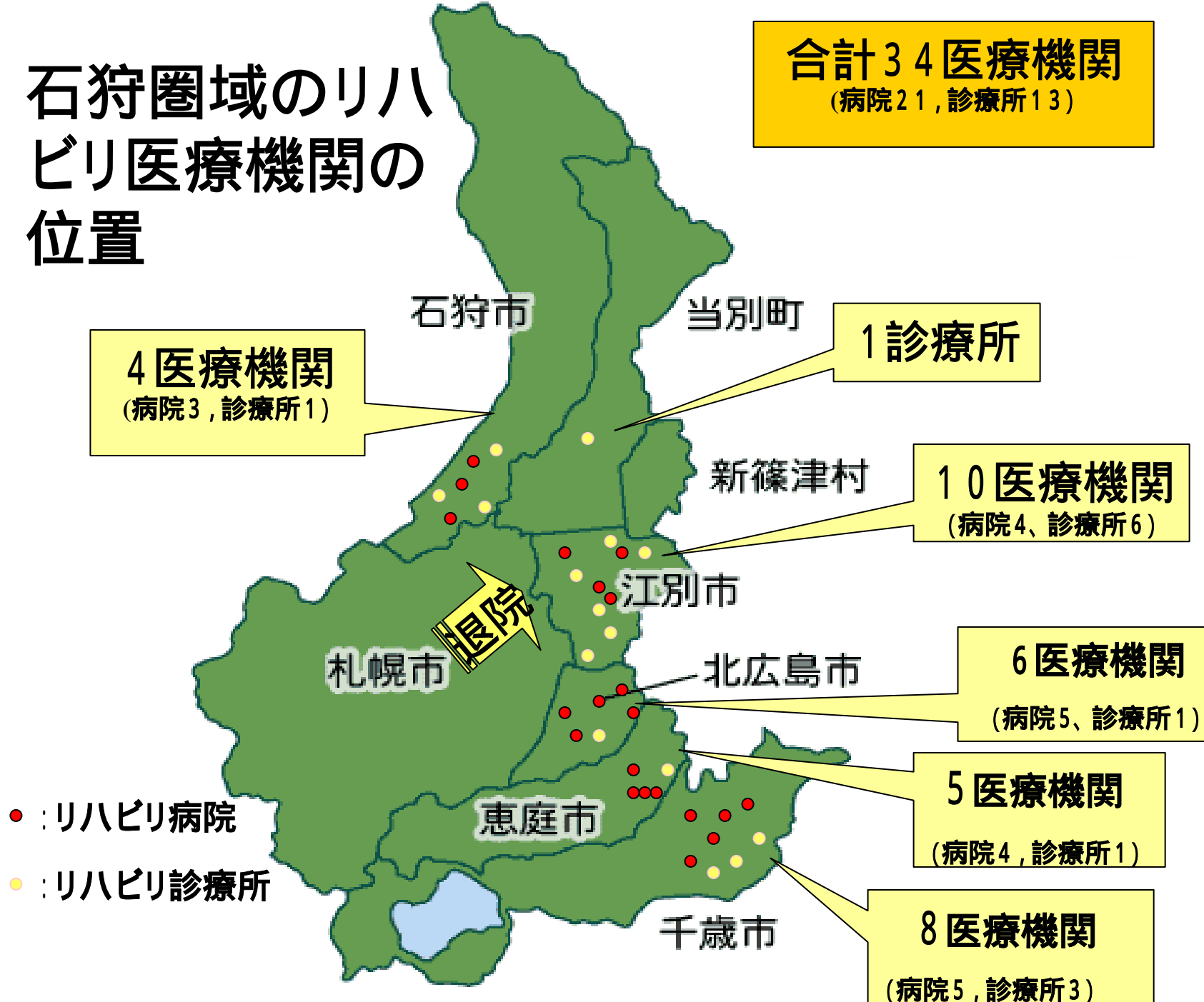
札幌市は同圏域であるが、地域リハビリテーション推進事業に現在は参画しないことになった

身体障害者福祉センターで行っている事業を切り口に出来ることからネットワークを進めようとしている。



石狩圏域のリハビリ医療機関の位置

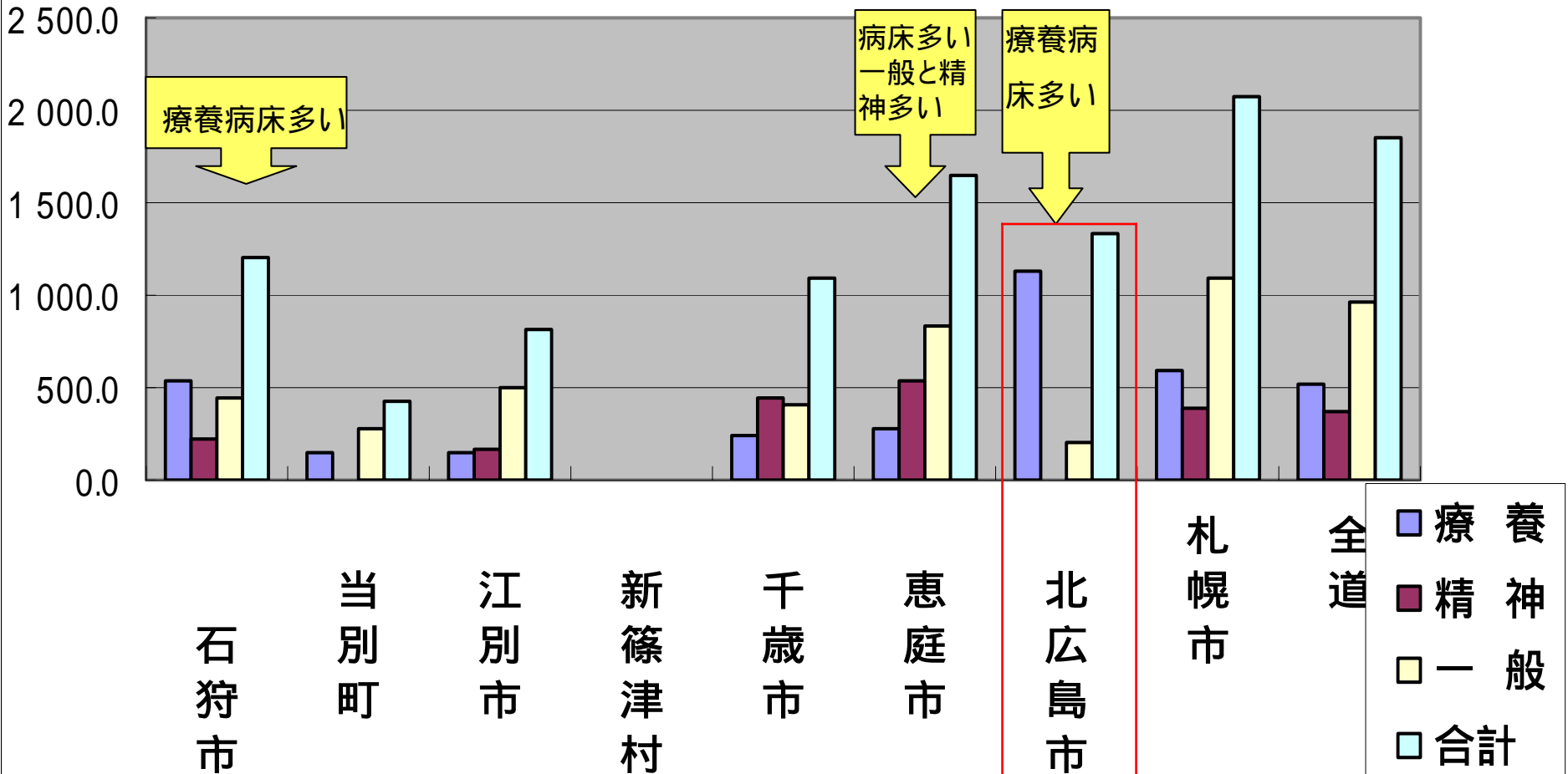
合計34医療機関
(病院21, 診療所13)



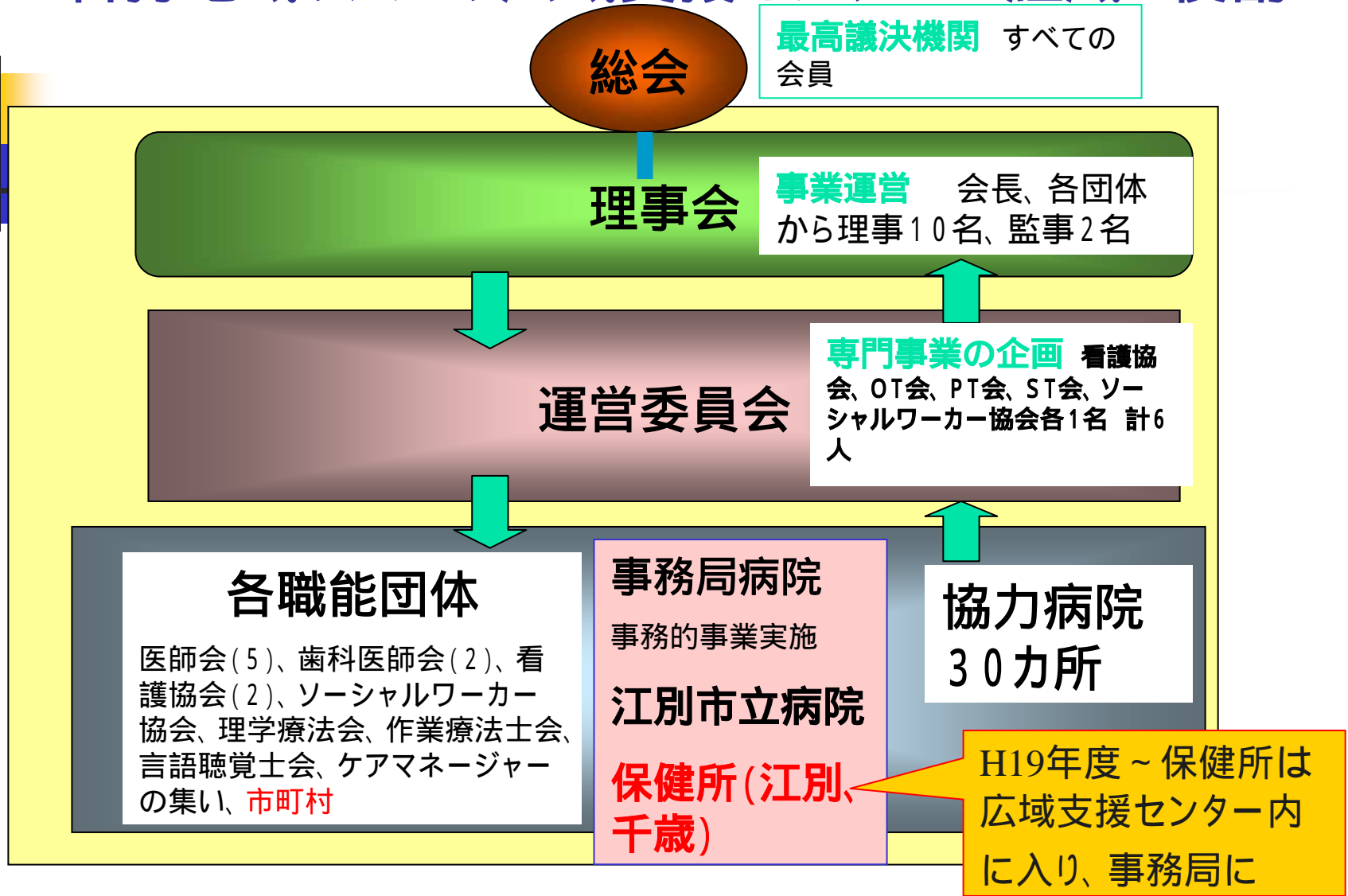
病院病床数(人口10万対) 市町村別

平成16年10月

病院病床数(人口10万対)



石狩地域リハビリ広域支援センターの組織と役割



平成19年度研修会

逢坂先生を講師に

設立説明に苦勞したため、成功している先進事例を学びたいと考えたため

- 日時:平成19年3月17日(土)13:30～17:00
- 場所:札幌市
- 対象者:江別・千歳保健所管内リハビリ支援関係者(医師、OT、PT、ST、看護職、ケースワーカー、ケアマネージャー等)

61名出席

講演「大阪府における地域リハビリテーション推進事業について～本当に意味のある事業を考える～」

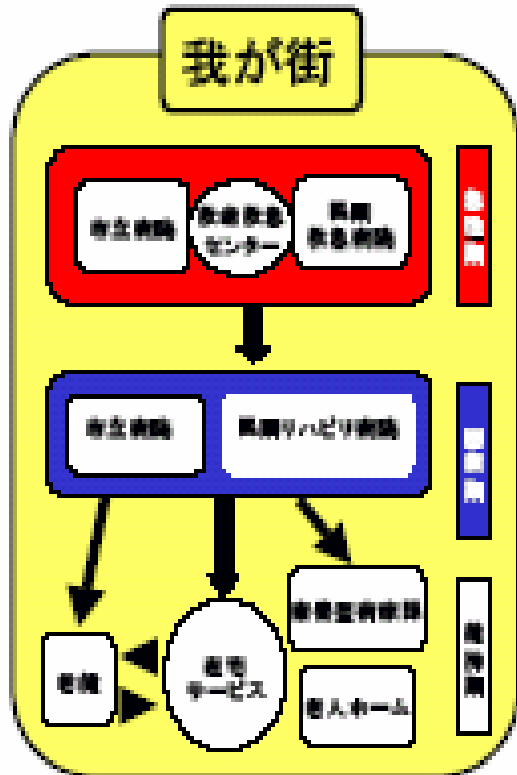
講師 逢坂悟郎氏

グループワーク **5グループで実施**

グループワーク記入内容

逢坂先生資料より

「まちづくり」 のマニュアル



- 1、仲間で共通理念をつくる
- 2、街の資源をさぐる
- 3、資源を分析
- 4、問題点、必要なことをさぐる
- 5、戦略を練る。優先順位を決定
- 6、多彩な領域に“組合”を作り、ニーズを出し合い、問題解決
- 7、領域同士、組合同士の融合
- 8、できれば資源を開発

目標 たとえ障害があっても生き生き楽しく暮らせる街をみんなでつくること

問題点 資源 解決策

急性期

病院

回復期

病院

維持期

療養型
病院

老健

在宅

模造紙

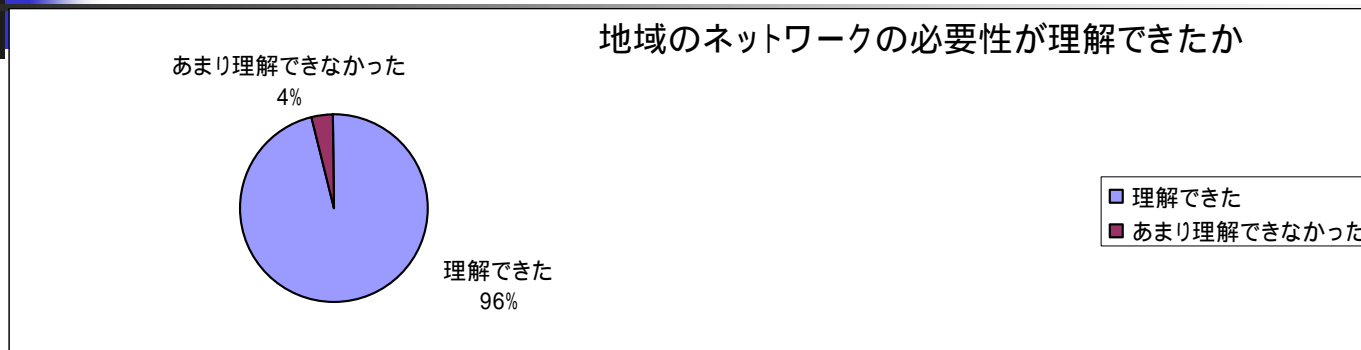
研修風景

■ グループワーク

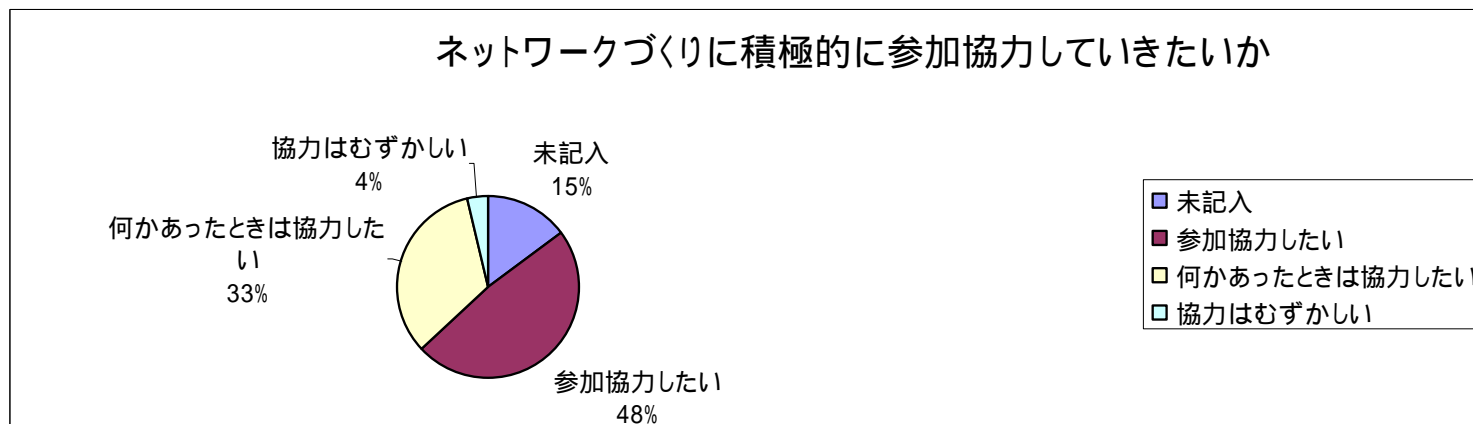


研修アンケート結果回収27名 回収率44.3%

問6 あなたがしている仕事にとって地域のネットワークづくりの必要性が理解できましたか



問7 今後のネットワークづくりに積極的に参加協力していききたいか



* 参加協力出来そうと所属と名前を記入してくれた方 19名

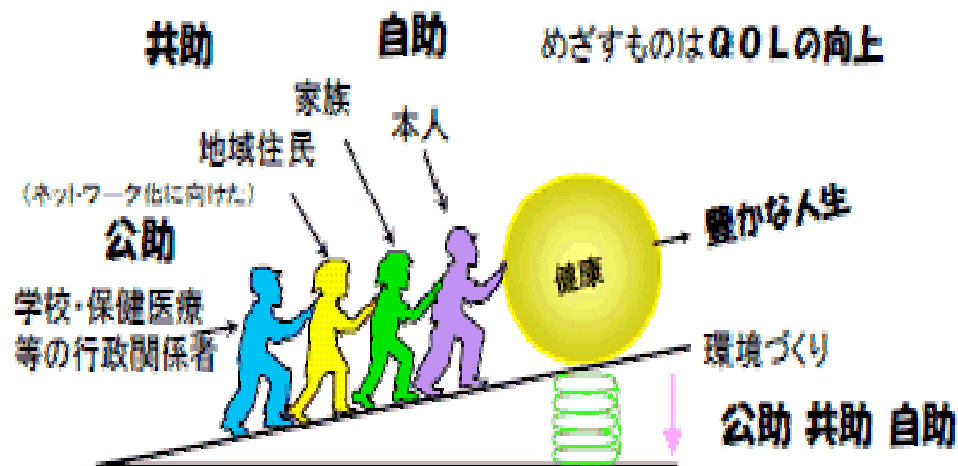
地域リハは・・・

研修企画に当たり、逢坂先生のまちづくりマニュアルや対話から感じたこと

住民主体の健康づくりのプロセス

ヘルスプロモーションの理念

- まちづくり、地域づくり、システムづくり = ヘルスプロモーション
- 保健所の役割は
 - ・ 相互理解 (EX. 医療制度改革や地域ケア整備構想の理解及びその中の各機関の役割)
 - ・ 地域課題 (ニーズ) の明確と共通認識
 - ・ 合意形成、各団体の各役割の明確化



(高内 1987, 吉田・藤内 1995を改編)



19年度の方向性

地域の課題を顕在化、共有化するネットワークづくりを地域ごとに進める = 地域懇談会の開催

< 考え方 >

- * 関係者にメリットのあることを実施していくべき
- * 地域で話し合ったことが見える活動にすること必要(出来ることから事業実施)

運営委員会

年6回 関係団体選出の6名

専門事業企画、地域懇談会企画、
圏域の課題集約検討

地域懇談会

江別市
当別町新
篠津村

石狩市
北広島
市

千歳市
恵庭市

[参集]キーとなる市町村 + 研修でネットワークに
参加して良いと言った19人 + 包括支援センター
等有志

[内容]研修グループワークの提示

- ・研修グループワークで実施した課題を吟味、
- ・解決の方法は何か、優先順位は

事業の工
夫に生か
す

既存事業に生かす
講師バンク
研修事業
普及啓発

ミーテ
ィングの
中で優
先され
た事業

新規事業立ち上げ検討
例えば・大阪豊能二次医療圏の例
病院施設間患者紹介連絡票
病院・施設のリハビリ自慢大会
維持期部会
合同症例検討会
病院連絡会

北広島地域懇談会 その1

- H19年3月研修後 地域連携パスを用いて、北広島市だけでは完結できない医療と介護をつなぐ、一貫した連携体制づくりを行いたい。(特に医療現場の看護職、ケースワーカー、包括支援センターから発信!)

■課題

医療機関・市内は療養病床数が多く、医療制度改革の中で療養病床削減が迫られており、介護難民をださないためにも、在宅ケアの推進に向け、医療と介護の連携が求められている。

介護分野・札幌の急性期医療から、何のサービス調整もなく、市内の医療や在宅へもどる市民が多いことから、北広島地域の医療・介護の各機関連携が必要となっていた。

8月 北広島地域懇談会第1回研修会

講演「砂川地域における地域連携パスの取り組みについて」

講師 砂川市立病院脳神経外科部長 高橋明先生

出席 84人 (医療10ヶ所、介護12ヶ所、包括4ヶ所) 札幌の病院は1カ所

札幌の病院8カ所程度周知

北広島地域懇談会 その2

地域連携パスの前に、医療・介護相互の機関を理解していないことがわかり、方向性を修正

■ 目的 (10月設定)

北広島の脳卒中患者が安心して在宅に帰ることが出来るよう、急性期－維持期(病院、介護保険施設)－在宅を支える関係職の連携が促進する

■ 目標

各機関が相互の機関の役割を理解することで、相談の質向上を図る。

各機関が地域の連携上の課題を明確にするなかで、各機関の新たな役割を検討できる。



北広島地域懇談会 その3

非常に活発！速度早い

研修会開催経過

(目的:医療 介護相互の機能・役割理解、連携上の課題明確化のため)

時期	内容
11月15日 18時30分～20時30分	第2回研修会(市内5ヶ所、札幌2ヶ所医療機関ケースワーカーによる紹介) 出席69名(医療7、介護8、包括4ヶ所)
1月10日 18時30分～20時30分	第3回研修会(市内5ヶ所、札幌1ヶ所医療機関リハビリスタッフによるリハビリ紹介) 出席105名(市内医療5、市外医療7、介護12、訪問看護5、包括5ヶ所) 千歳・恵庭地域にも周知
2月14日	第4回研修会(北広島地域訪問系・通所系リハビリ7ヶ所紹介) 次年度上半期は、介護保険関係実践報告予定

その他

- 地域懇談会(研修前企画、研修後評価)打ち合わせ 7回開催 出席者毎回約30人
- 市内・市外(札幌清田区・厚別区、南空知)医療機関等に、懇談会メンバーが趣旨を説明にまわる。6カ所
- 施設内研修のオープン化 市内2ヶ所病院(FIM研修、摂食嚥下研修)

千歳・恵庭地域懇談会 その1

- 目的: 各機関の特徴や課題を知り合い、千歳、恵庭の地域リハビリテーションネットワークを推進する。まず、実施可能な維持期のネットワークから実施していく
- 第2・3回目目標: どのような地域リハビリテーションネットワークがあると良いかイメージの共有化を図る
- 方法: 連携関係図及び所属PRと課題を出し合いお互いを知り合い、どんなネットワークがあると良いか考える

	開催年月	場所	人数
第1回	H19.8	恵庭	10
第2回	H19.9	千歳	28 <small>連携関係図</small>
第3回	H19.11	恵庭	30 <small>新規半数</small>
企画会議	H20.1	恵庭	13

目標設定。草の根的に声をかけ合い広げて行こう!!

今後の方向性に行き詰まったため、企画会議実施

あると良いネットワーク

機関や個人を知り合い、タイムリーでお互いにメリットのある資源情報があるネットワークがあると良い=対象者に継続した質の高い情報、サービスが提供できQOLが向上

千歳・恵庭地域懇談会 その2

[企画会議] 1月

- 優先課題：各機関の情報がなく、閉鎖的であり、繋がれるところだけとつながっている。
↓
- 方向性：病院、施設の特徴、サービスの内容、空き情報を情報交換し、継続した質の高いサービス提供できるよう風通しをよくする

■活動を2つに決定

北広島と合同で地域懇談会を実施し、地域の流れを作る活動

(北広島から合同実施の働きかけがあり、恵庭・千歳にある急性期病院に札幌の手稲溪仁会病院地域連携パス方式を導入していく方向性が出てきたため)

身近な千歳・恵庭で課題を検討していく活動

- 目標修正：各機関の特徴や課題を知り合い、どんな病気や障害があっても安心して生活できるためのネットワークの推進を図る。

石狩地域懇談会

3月の研修会で出席人数少なく石狩単独の地域課題検討できなかった

時期	会議名	出席者	内 容	人数
8月	企画打合せ	市保健センターに働きかけ、ネットワークに参加したいメンバー、保健所	地域リハビリテーションと地域懇談会の趣旨説明、石狩で困っていることをディスカッション、どんな情報があると良いか	7
9月	企画打合せ	〃	「地域資源」、「課題」、「目指したい地域像」検討、今後の運営	8
12月	地域懇談会(石狩市地域ケア会議と合同実施)	介護保険関係職員、民生委員含む	グループワーク「地域資源」、「課題」、「目指したい地域像」	71

■ 地域懇談会ねらい: お互いの顔を知り、お互いの立場で考えていることを知ることでネットワークの促進をめざす

■ グループワーク結果

地域資源 大方が札幌の病院、厚田浜益地区は資源少ない

課題 リハビリ職員が少ない。機関少なく選択の手だてがない

目指したい地域像 役割機能の病院一覧あると良い、

地域情報の全戸配布。元気なお年寄りの出て行く場がない

今後、企画打合せで
方向性検討予定

江別・当別・新篠津地域懇談会

- 10月 江別市保健センターに主催協力を働きかけ
 - ・リハビリを総括する窓口がない。特定健診等忙しく、リハビリは優先度が高くないため、協力難しい



- 2月上旬 江別地域懇談会に向けた打合せ実施
 - ・江別市、包括支援センター、江別市立病院、協力病院、運営委員、保健所 計17名（管理者多かった）
 - ・今後の具体的な活動の打ち合わせには至らなかった

今後、実務者を参集の上実施検討できると良いのか？

石狩地域リハビリテーション広域 支援センターの課題

その1

- 1 石狩地域リハビリテーション推進会議は、設立後1年であり、認知度は低く、啓蒙が必要である。またさらに、地域リハビリテーションは保健・福祉・医療のまちづくりということを理解するまでには時間がかかる。(何度も啓蒙していくことが必要である)
- 2 4カ所の地域懇談会の進捗状況に大きな差があり、未設置地域の工夫が必要。
- 3 課題は抽出されてきているが、その優先順位を絞り込めていないため、戦略の立案には至っていない。

3/1研修会后、地域懇談会企画委員対象に戦略会議実施予定

- 4 地域懇談会で出た課題を一般市民に提示し、市民も発言出来る市民参加タウンミーティングを今後実施していきたい。(課題の明確化及び人材発掘の場)

住民・関係者が主役！



石狩地域リハビリテーション広域 支援センターの課題

その2

- 4 運営委員は活性化してきているが、今後地域懇談会のメンバーを参画し強化する体制づくりが必要であり、地域から圏域の課題の集約化を図っていきたい。
- 5 講師バンクはまだ活用されていない。この地域にとっての講師バンクの役割が明確になっていなく、今後、周知、コーディネート体制と共に検討が必要である。
- 6 具体的なケースを通じた連携が必要であり、その手段としての連携パスの活用も今後望まれる。

平成19年度研修会及び戦略会議

平成20年3月1日(土) 12:30 ~

研修会(一般向け)

- 地域懇談会報告
- 講義「地域リハビリテーションは 保健・医療・福祉のまちづくり～ 地域連携パス推進を見据えて～」
講師 兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター
西播磨病院 逢坂悟郎氏

戦略会議(懇談会企画メンバー、運営委員向け)

- 講義「石狩地域リハビリテーション推進会議の長期的な戦略を考える」 講師 逢坂 悟郎氏
- グループ討議(地域懇談会毎グループ)
- グループ報告、全体ディスカッション及びまとめ

長期戦略と次年度の方向性が
明確になる